

江東区 中小企業の景況

令和6年度第2四半期
発行元：江東区地域振興部経済課
調査機関：(一社)東京都信用金庫協会
※詳細はホームページをご覧ください。

【調査の概要】

- 調査時期・・・・・・・・・・ 令和6年7月～9月期を対象に令和6年9月上旬に実施
- 調査方法・・・・・・・・・・ 面接聴取調査
- 調査の回収状況・・・・・・・・ 有効回収率 97.5%

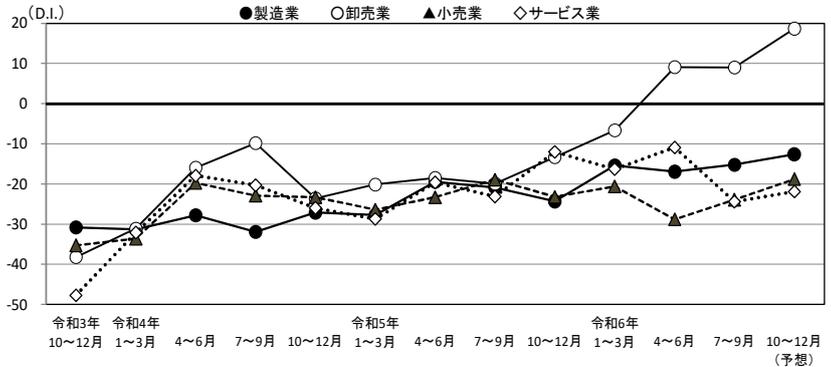
	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業	106	104
卸売業	24	24
小売業	38	38
サービス業	35	32
総合	203	198

業況(△14.9→△15.9)は前期並の悪化幅で推移した。
～小売業で4.9ポイント、製造業で1.7ポイント改善したが、サービス業で13.5ポイント大幅に悪化～
業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合-「悪い」企業割合)は-15.9(前期は-14.9)と前期並の悪化幅で推移した。業種別に見ると、小売業で4.9ポイント持ち直し、製造業でも1.7ポイント改善したが、サービス業で13.5ポイント大幅に悪化を強めた。卸売業は前期同様の水準で推移した。
来期の業況判断DIは、悪化幅が多少縮小すると予想している。業種別に見ると、卸売業で増勢が大きく強まるのをはじめ、他の3業種すべてで改善すると見込んでいる。

●各業種別業況の動き

	前期	今期	前期からの増減	来期予想	今期からの増減
製造業	-16.9	-15.2	1.7	-12.6	2.6
卸売業	9.1	9.0	-0.1	18.7	9.7
小売業	-28.8	-23.9	4.9	-18.8	5.1
サービス業	-10.9	-24.4	-13.5	-21.9	2.5
総合	-14.9	-15.9	-1.0	-11.5	4.4

※前期(2024年4～6月) 来期(2024年10～12月)
※「総合」は上記の4業種でのD.I値



●各業種別の今期の特徴と来期の予測

製造業	<p>業況は前期並の悪化幅で推移した。売上額と受注残は減少を強め、収益は前期並の減少・減益幅で推移した。価格面では、販売価格と原材料価格は前期同様の上昇が続いた。原材料在庫は不足感が緩和され適正水準となった。</p> <p>来期の業況は悪化幅が若干縮小すると予想している。売上額と受注残は多少改善するが、収益は今期並の減少・減益幅で推移すると見込まれている。販売価格はわずかに上昇を強め、原材料価格は今期並の上昇幅で推移すると予想している。</p>
卸売業	<p>業況は前期同様の好調感が続いた。売上額は堅調に推移したが、収益は減少幅が若干拡大した。価格面では、販売価格は上昇傾向をさらに強め、仕入価格は厳しい状況に変わりないものの上昇幅がわずかに縮小した。在庫数量は前期に続いて適正水準が保たれた。</p> <p>来期の業況は好調感が大幅に増すと予想している。売上額は増加傾向を大きく強め、収益も水面下を脱し増益に大きく転じると見込んでいる。販売価格はわずかに上昇が弱まり、仕入価格は厳しい状況は続くものの上昇傾向が大幅に弱まると予想している。</p>
小売業	<p>業況はかなり持ち直し、売上額と収益も減少・減益傾向が大幅に弱まった。価格面では、販売価格は前期同様の上昇水準が続き、仕入価格はかなり上昇傾向が強まった。在庫数量は品薄感が緩和され適正水準となった。</p> <p>来期の業況は今期に引続いて持ち直すと見込んでおり、売上額と収益も減少・減益幅が若干縮小すると予想している。販売価格と仕入価格はともに上昇傾向が幾分弱まると見込まれている。</p>
サービス業	<p>業況は悪化傾向が大幅に強まり、売上額と収益も減少・減益幅がかなり拡大した。価格面では、料金価格は上昇がやや弱まり、材料価格は前期並の上昇幅で推移した。</p> <p>来期の業況は悪化傾向が若干弱まると見込まれている。売上額と収益は前期並の減少・減益幅で推移すると予想している。また、料金価格は上昇が一服し、材料価格は今期並の上昇幅で推移すると見込まれている。</p>

特別調査

「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」

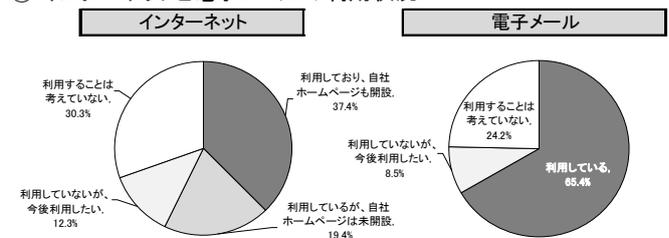
本調査結果の特徴	① インターネットと電子メールの利用状況	【インターネット】 『利用している』 56.9% 『利用していない』 42.7%	【電子メール】 「利用している」 65.4% 『利用していない』 32.7%
	② インターネットバンキングの契約状況とその理由	【契約している】 ……35.1% ・「夜間や休日でも利用できる」 10.4% ・「金融機関の店舗に行く必要がない」 9.0%	【契約していない】 ……64.9% ・「利用する機会がない」 40.3% ・「金融機関職員が訪問するから不要」 17.1%
	③ 新紙幣発行に伴う対応と、それを機にしたキャッシュレス支払手段の導入・強化	【新紙幣発行に伴う対応】 ・「対応した」 17.1% ・「対応の必要性を感じているがまだ対応していない」 23.7%	【新紙幣発行を機にキャッシュレス支払手段の導入】 ・「既に導入済みでさらに強化した」 3.3% ・「既に導入済みで強化はしていない」 19.9%
	④ 取引先や顧客との決済におけるキャッシュレス支払手段の活用状況	・「クレジットカード」 30.5% ・「活用していない・関係ない」 52.9%	
	⑤ キャッシュレス支払手段を導入した上での不満、または未導入の理由	・「手数料が高い」 18.9% ・「わかる人がいない」 14.6% ・「不満などはない」 43.2%	

① インターネットと電子メールの利用状況

インターネットについては、『利用している』が56.9%で、『利用していない』が42.7%であった。また、電子メールについては、『利用している』が65.4%、『利用している』が65.4%、『利用することは考えていない』が24.2%、『利用していない』が32.7%であった。

① インターネットと電子メールの利用状況

※問4と問5は最大3つまで選択回答

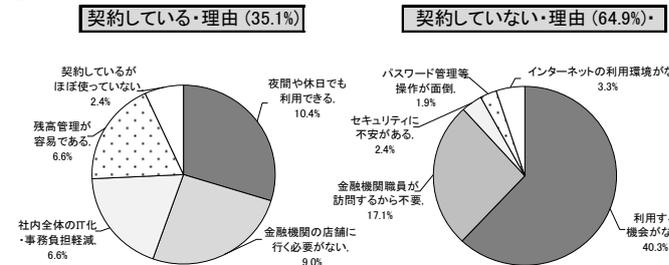


② インターネットバンキングの契約状況とその理由

インターネットバンキングの契約状況については、『契約している』の35.1%に対して、『契約していない』が64.9%と上回った。

② インターネットバンキングの契約状況とその理由

『契約している』の理由としては、「夜間や休日でも利用できる」が10.4%で最も多かった。また、『契約していない』の理由としては、「利用する機会がない」が40.3%で最も多かった。



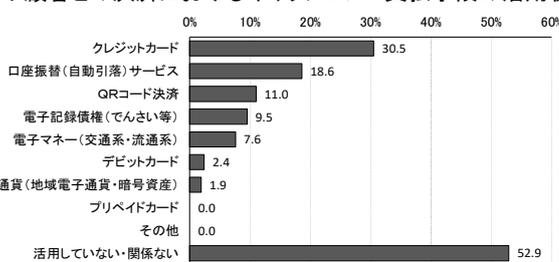
③ 新紙幣発行に伴う対応と、それを機にしたキャッシュレス支払手段の導入・強化

新紙幣の発行に伴う何らかの対応については、「対応の必要性を感じていない」が59.2%と約6割を占めており、「対応した」は17.1%、「対応の必要性を感じているがまだ対応していない」が23.7%であった。また、新紙幣の発行を機にキャッシュレス支払手段の導入又は強化については、「導入していない」が71.6%と7割超を占め、「既に導入済みで強化はしていない」が19.9%という結果であった。

④ 取引先や顧客との決済におけるキャッシュレス支払手段の活用状況

④ 取引先や顧客との決済におけるキャッシュレス支払手段の活用状況

現在活用しているキャッシュレス支払手段について最大3つまで伺った結果、「クレジットカード」が30.5%で最も多く、次いで、「口座振替（自動引落）サービス」(18.6%)、「QRコード決済」(11.0%)、「電子記録債権（でんさい等）」(9.5%)、「電子マネー（交通系・流通系）」(7.6%)などであった。一方、「活用していない・関係ない」は52.9%と過半数を占めた。



⑤ キャッシュレス支払手段を導入した上での不満、または未導入の理由

キャッシュレス支払手段を導入した企業には導入したうえでの不満を、また、キャッシュレス支払手段を導入していない企業には導入していない理由をそれぞれ最大3つまで伺った。その結果、「手数料が高い」が18.9%で最も多く、次いで、「わかる人がいない」(14.6%)、「初期費用が高い」(13.1%)、「現金化までに時間がかかる」(11.2%)などであった。一方、「不満などはない」は43.2%であった。

⑤ キャッシュレス支払手段を導入した上での不満、または未導入の理由

